

---

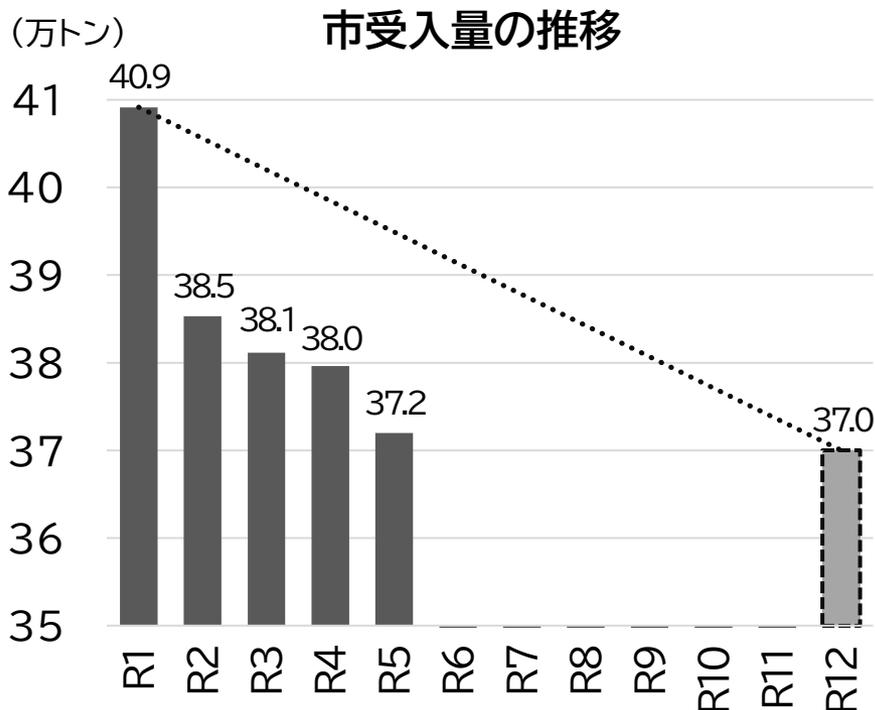
# プランの進捗状況 (指標編)

---

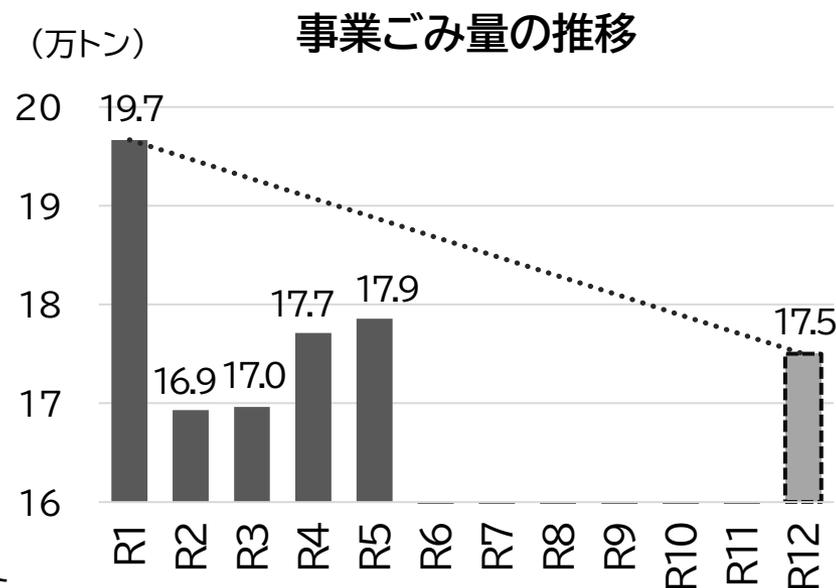
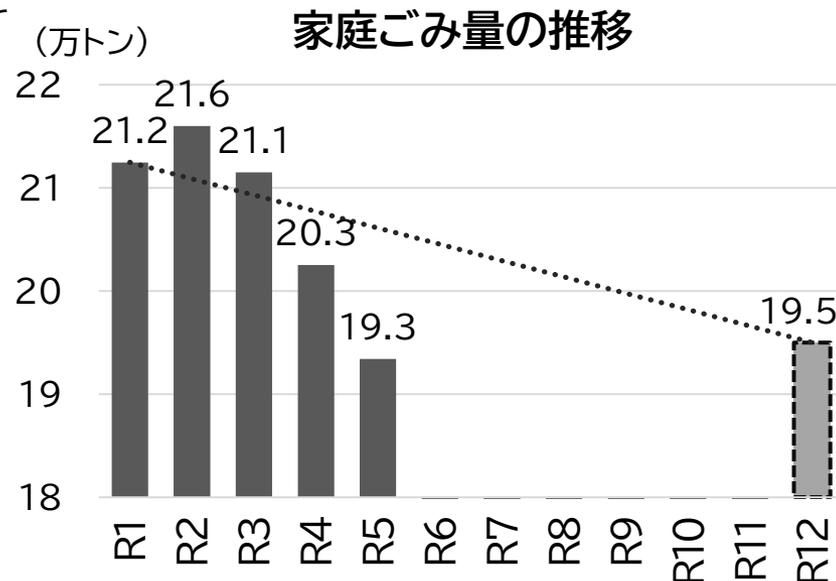
# 数値目標(指標)の進捗状況

分類	目標指標		単位	平成12年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和12年度	
				(2000年度) ピーク時	(2019年度) 基準年度	(2020年度)	(2021年度)	(2022年度) 前年度	(2023年度) 当年度	(2030年度) 目標年度	
ごみ量	[1]	市受入量	万トン	82	40.9	38.5	38.1	38.0	37.2	37	
		市民1人1日当たり	グラム	1,530	762	721	718	718	704	700	
		内訳	家庭	万トン	35	21.2	21.6	21.1	20.3	19.3	19.5
			市民1人1日当たり	グラム	640	396	404	399	383	366	370
			事業	万トン	47	19.7	16.9	17.0	17.7	17.9	17.5
	市民1人1日当たり	グラム	890	366	317	320	335	338	330		
	[2]	ごみ焼却量	万トン	76	38.2	34.9	34.8	34.3	33.8	33	
		市民1人1日当たり	グラム	1,420	711	654	655	649	639	625	
		内訳	家庭	万トン	33	19.0	18.8	18.5	17.5	17.1	16.3
			市民1人1日当たり	グラム	615	354	352	348	330	324	310
事業			万トン	43	19.2	16.1	16.3	16.8	16.6	16.7	
市民1人1日当たり	グラム	805	357	302	307	318	315	315			
2R	[3]	レジ袋使用量(家庭)	トン	5,200	2,500	1,500	1,200	1,200	1,200	400	
		市民1人当たり	枚	340	220	130	110	110	110	35	
	[4]	ペットボトル排出量(家庭)	トン	3,600	3,400	3,300	3,300	3,400	3,400	1,600	
		市民1人当たり	本	90	90	90	90	90	90	45	
	[5]	使い捨てプラスチック排出量	万トン	6.0	5.1	4.8	4.8	4.9	5.0	-	
	[6]	食品ロス排出量	万トン	9.6	6.1	5.7	5.5	5.4	5.0	4.6	
		市民1人1日当たり	グラム	179	114	107	103	102	95	87	
		内訳	家庭	万トン	4.0	2.5	2.6	2.4	2.6	2.2	2.0
			市民1人1日当たり	グラム	75	47	49	45	49	42	38
	事業	万トン	5.6	3.6	3.1	3.1	2.8	2.8	2.6		
市民1人1日当たり	グラム	104	67	58	58	53	53	49			
リニューアブル	[7]	バイオプラスチック製容器包装排出割合	%	-	-	22(レジ袋)	33(レジ袋)	34(レジ袋)	33(レジ袋)	-	
分別・リサイクル エネルギー創出 適正処理	[8]	プラスチックごみ分別実施率(家庭)	%	-	46	47	48	50	47	60	
	[9]	食品廃棄物リサイクル率(事業)	%	-	19	23	23	26	24	36	
	[10]	再生利用率	%	-	31	31	33	34	34	39	
	[11]	市最終処分量	万トン	16.5	5.1	5.1	4.9	4.6	4.5	4.4	
	脱炭素	[12]	廃棄物処理に伴う温室効果ガス排出量	万トンCO <sub>2</sub>	28	16.1 (2013年度)	14.7	14.8	14.6	算出中	11.3

# ごみ量(市受入量)



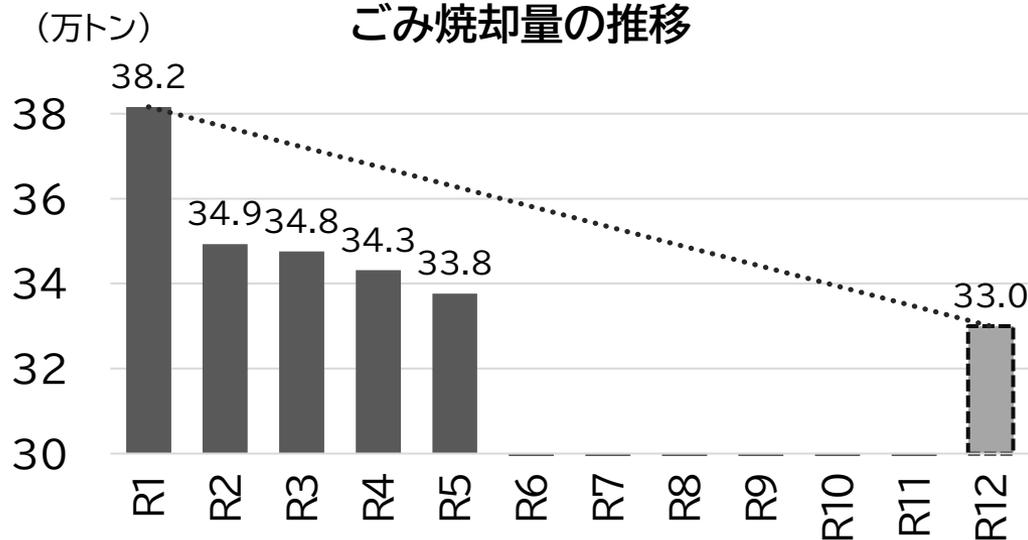
(内訳)



- R2年度にコロナ禍の影響を受けて、家庭ごみは巣ごもりで微増、事業ごみは社会経済活動の停滞で大きく減少
- その後、コロナ禍からの社会経済活動の回復に伴い、家庭ごみは減少し、事業ごみは増加傾向
- R4年度以降は物価高騰の影響もあり、全体としてR5年度37.2万トンと目標まで残り0.2万トン

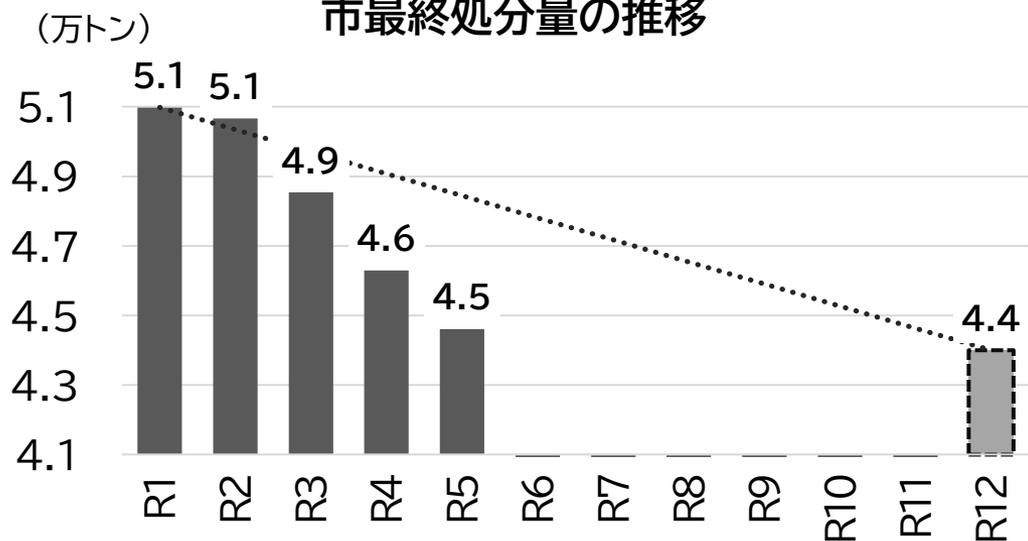
# ごみ処理量

## ごみ焼却量の推移



- R2年度に市受入量の減少や南部CCバイオガス化施設稼働(R1.10～)の効果によって、大きく減少
- R5年度は市受入量の減少に加えてプラ製品の分別等によって減少
- R12年度目標33万トンまでは残り0.8万トン

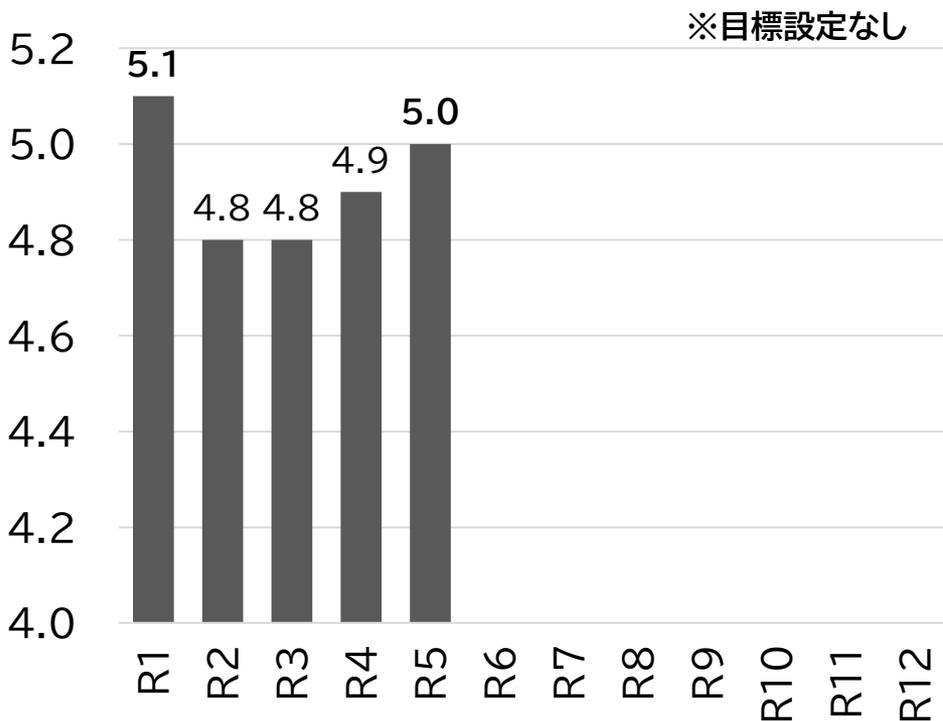
## 市最終処分量の推移



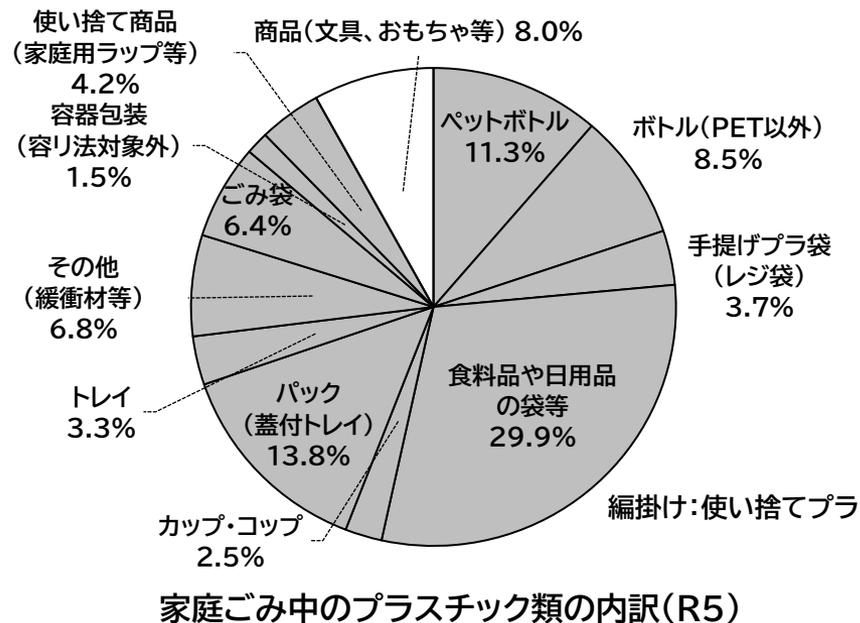
- R3年9月からは東北部CCでの焼却灰からの鉄分回収を開始し減少
- R5年度は市受入量の減少に伴い、最終処分量も減少
- R12年度目標4.4万トンまでは残り0.1万トン

# 使い捨てプラスチック排出量

(万トン) 使い捨てプラスチック排出量の推移

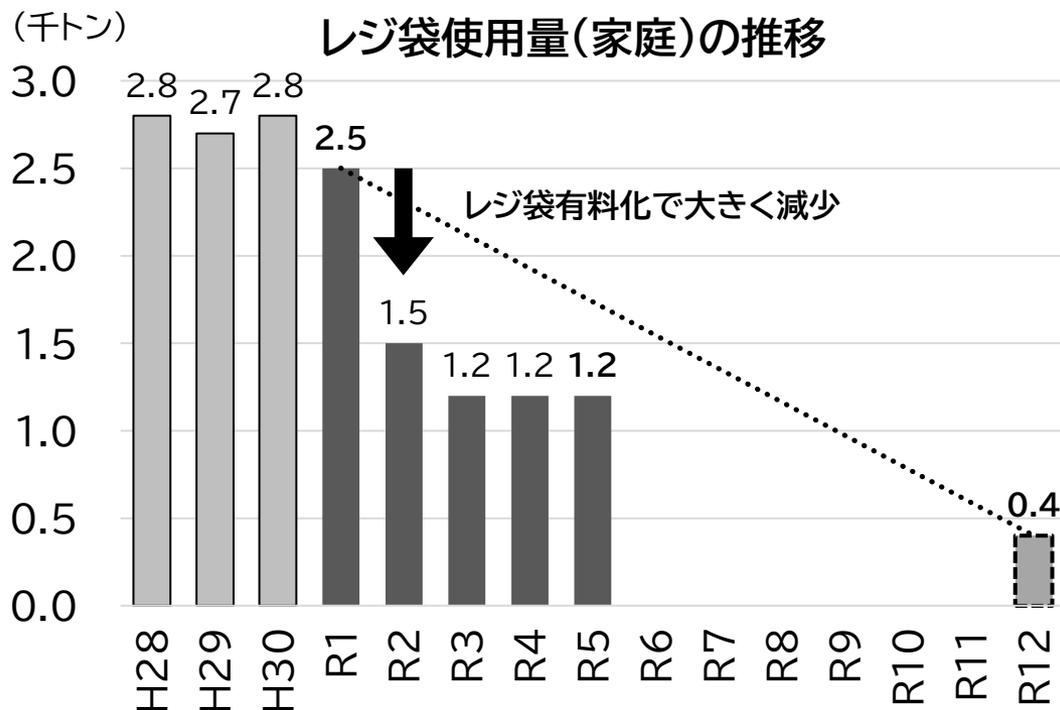


- 全体として横ばい傾向。  
R2～3年度はコロナ禍で事業系が減少
- 家庭系は緩やかな減少傾向がみられる。



	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
使い捨てプラ排出量	5.15万ト	4.77万ト	4.79万ト	4.92万ト	5.03万ト
うち家庭系	3.17万ト	3.12万ト	3.12万ト	2.95万ト	2.97万ト
うち事業系	1.98万ト	1.65万ト	(1.68万ト)	1.98万ト	(2.06万ト)

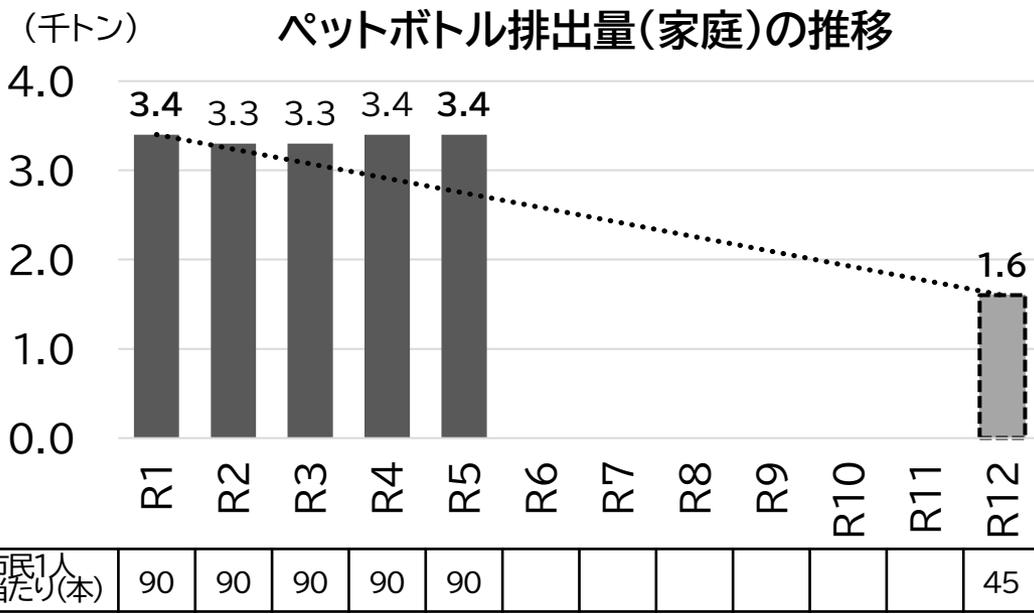
# レジ袋使用量(家庭)



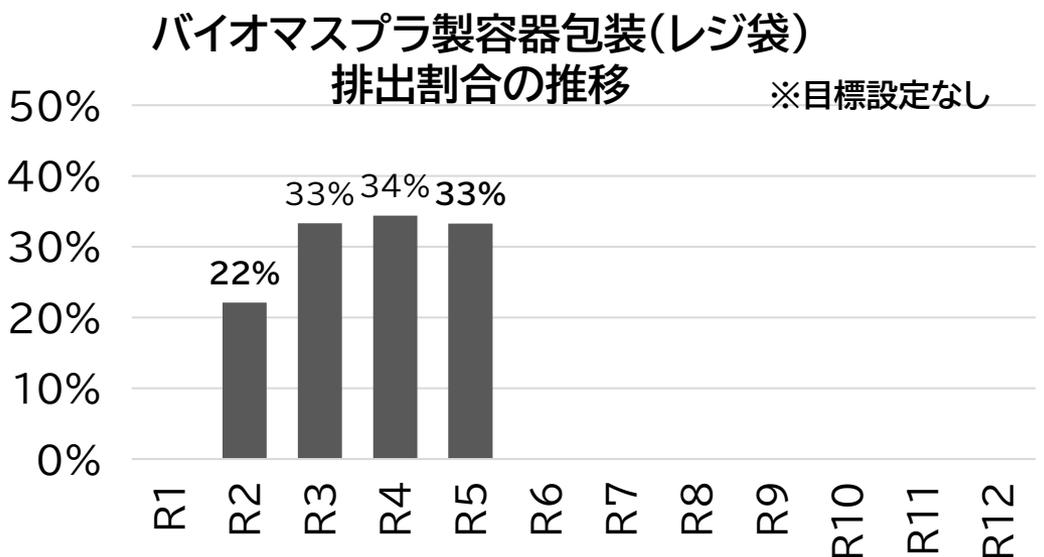
- R2年度のレジ袋有料化で大きく減少したものの、その後は横ばい傾向が続いている。
- レジ袋使用量のうち、8割以上がごみ捨て用に使用されたものである。

		H12 【ピーク】	R1 【基準】	R2	R3	R4	R5	R12 【目標】
レジ袋使用量(トン)		5,200	2,500	1,500	1,200	1,200	1,200	400
(内訳) 再使用の状況	ごみ捨て再使用	—	2,000	1,100	1,000	1,000	1,000	—
	そのまま廃棄	—	500	400	200	200	200	—
市民1人当たり(枚)		340	220	130	110	110	110	35

# 【指標】ペットボトル排出量(家庭)／バイオプラスチック製容器包装排出割合

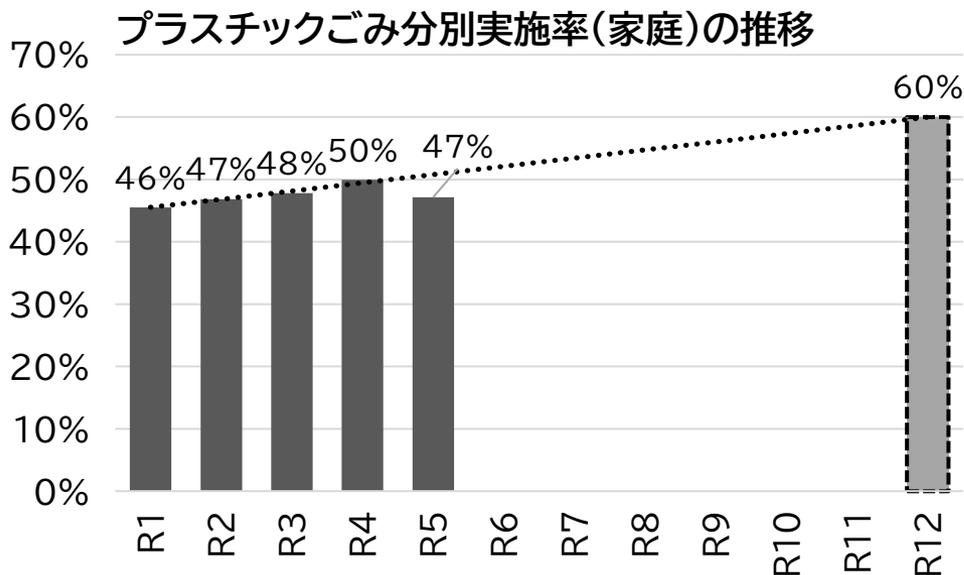


- ペットボトル排出量は横ばい傾向
- 全国の飲料販売において、ペットボトルの割合及び販売量が増加傾向であり、京都市も抜け出せていない状況
- R4年度から資源ごみとして収集・中間処理したペットボトルを、再びペットボトルとして再利用する「ボトルtoボトルリサイクル事業」を開始



- バイオマスプラの使用有無が明確に判別できる品目が現在レジ袋のみであるため、レジ袋のみで評価している
- R2年度のレジ袋有料化においてバイオマスプラ25%以上が有料化の対象外となったため、R3年度に増加したが、R4～5年度は横ばい傾向が続いている

# プラスチックごみ分別実施率(家庭)



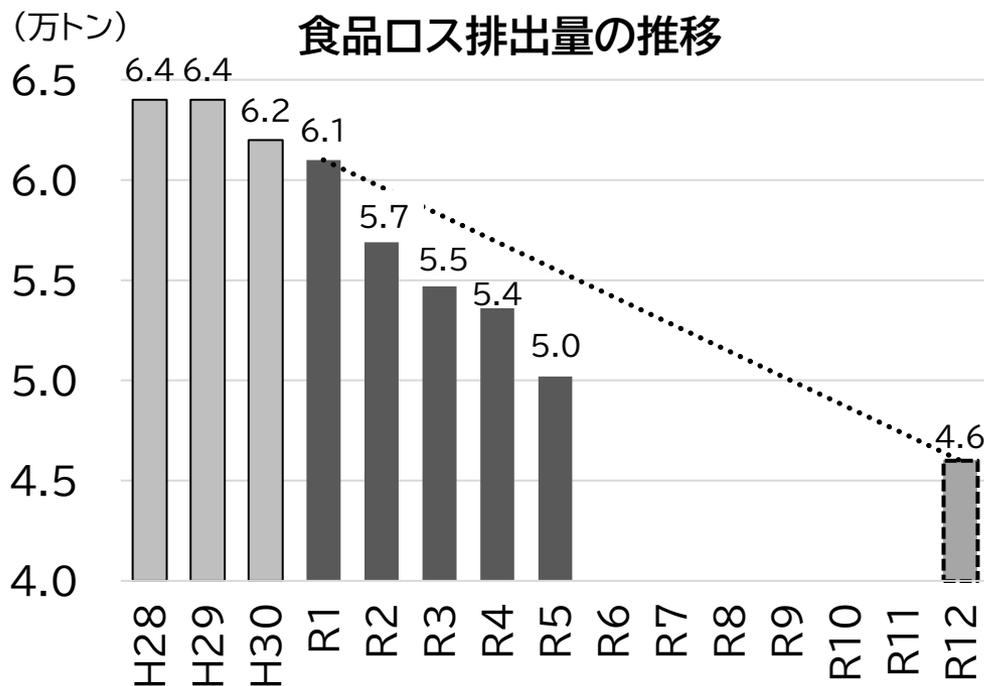
- 分別実施率は増加傾向
- R5年度は新たに分別対象(プラスチック製品)が加わったため、全体の分別実施率が下がっている。  
(~R4までの算定対象分では52%)

	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
プラスチックごみ分別実施率(家庭)	46%	47%	48%	50%	47%
ペットボトル分別実施率	84%	88%	90%	89%	90%
プラスチック容器包装分別実施率	39%	40%	41%	43%	44%
プラスチック製品分別実施率 (R4年度までは算定対象外)	—	—	—	—	23%

} 52%

$$\text{プラスチックごみ分別実施率} = \frac{\text{分別対象プラスチック類の引渡数量及び店頭回収量}}{\text{市収集ごみ中の分別対象プラスチック類及び店頭回収の総量}}$$

# 食品ロス排出量

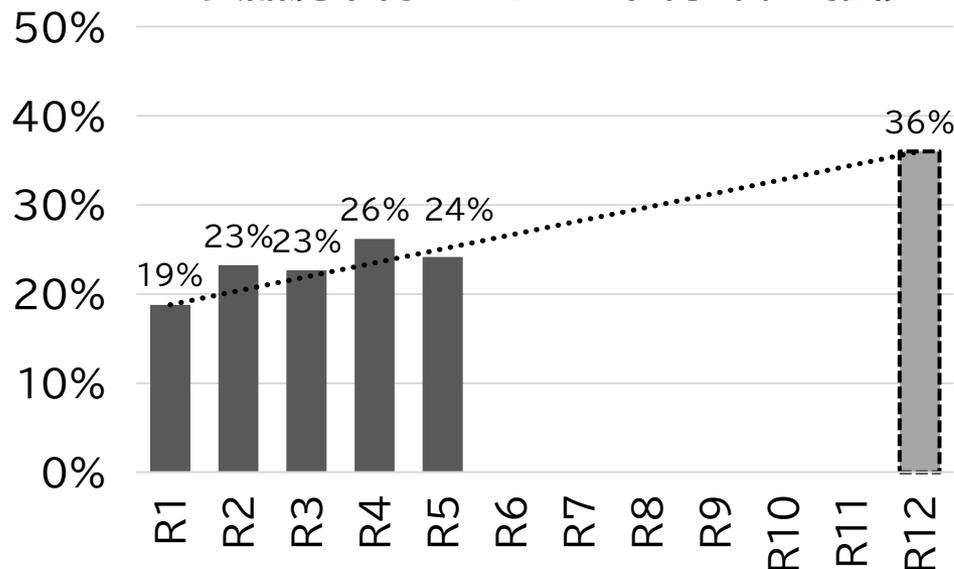


- 合計量は毎年減少し、R5年度は5.0万トンとR12年度目標4.6万トンまでは残り0.4万トン
- 家庭系は、R5年度に大きく減少(△0.4万トン)
- 事業系も、コロナ禍からの経済活動の回復でごみ量が増加する中で、食品ロス量は減少傾向  
(業者収集ごみの組成調査はR2年度以降、隔年実施のため、R3、R5年度は前年度の組成割合を用いて算出している)

	H12年度 【ピーク】	R1年度 【基準】	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R12年度 【目標】
食品ロス排出量	9.6万トン	6.1万トン	5.7万トン	5.5万トン	5.4万トン	5.0万トン	4.6万トン
うち家庭系	4.0万トン	2.5万トン	2.6万トン	2.4万トン	2.6万トン	2.2万トン	2.0万トン
うち事業系	5.6万トン	3.6万トン	3.1万トン	(3.1万トン)	2.8万トン	(2.8万トン)	2.6万トン

# 食品廃棄物リサイクル率(事業)

食品廃棄物リサイクル率(事業)の推移

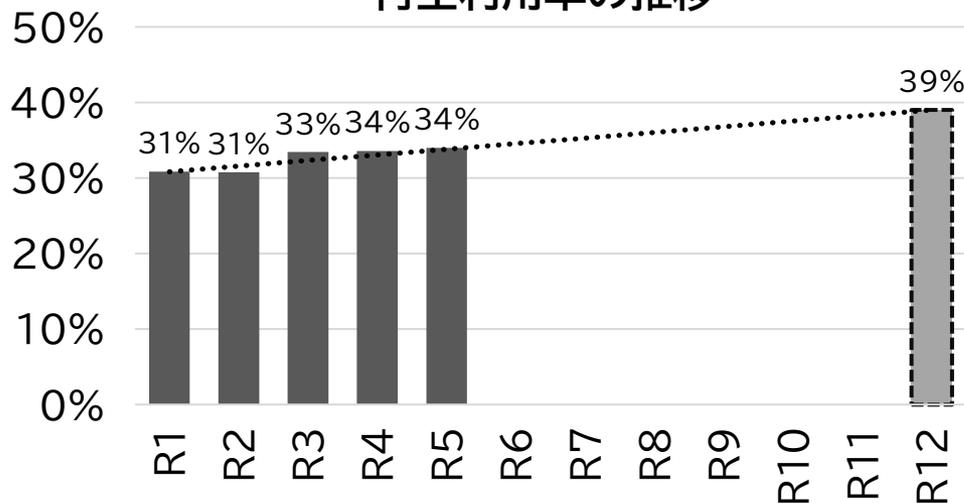


- R5年度の食品廃棄物リサイクル率は前年から2ポイント減少し、24%
- 減少要因は、市バイオガス化施設の定期点検等の影響で処理量が減少したため
- 民間での食品リサイクル量は横ばい傾向
- R12年度目標まで残り12ポイント

	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
食品廃棄物リサイクル率(事業) (①÷②)	<b>19%</b>	<b>23%</b>	<b>23%</b>	<b>26%</b>	<b>24%</b>
①食品廃棄物リサイクル量(事業)	1.4万ト	1.3万ト	1.3万ト	1.5万ト	1.4万ト
民間施設	1.1万ト	0.9万ト	1.0万ト	1.0万ト	1.0万ト
市施設(バイオガス化施設)	0.2万ト	0.4万ト	0.4万ト	0.5万ト	0.4万ト
②食品廃棄物排出量(事業)	7.2万ト	5.8万ト	5.9万ト	5.6万ト	5.7万ト

# 再生利用率

## 再生利用率の推移

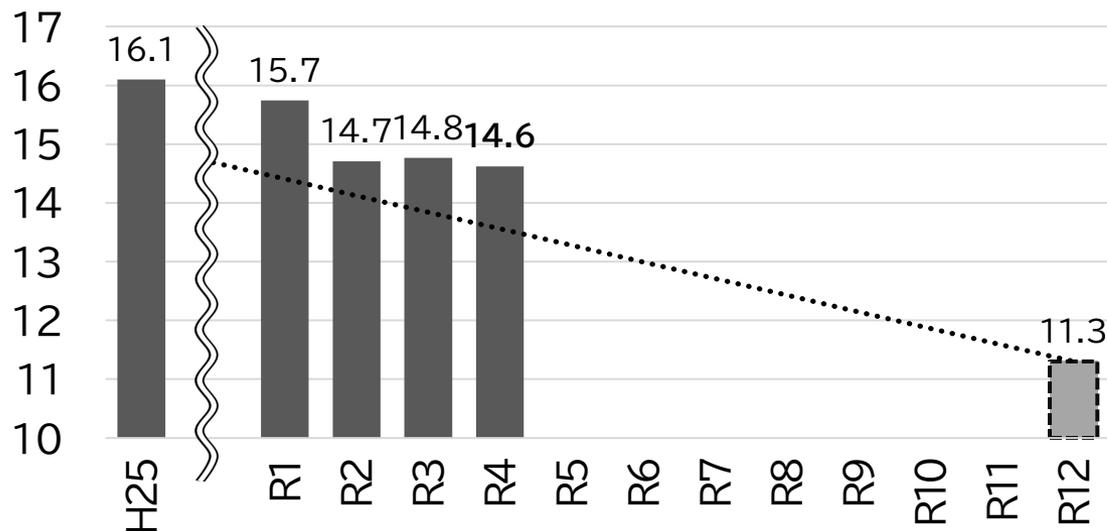


- 再生利用率はわずかに増加傾向
- R5年度は民間リサイクル量のうち、家庭系が0.3万トン減少した一方で、事業系は持込ごみ搬入手数料改定によって、せん定枝の民間リサイクル施設への搬入が進んだことなどにより、0.3万トン増加
- R12年度目標まで残り5ポイント

	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
<b>再生利用率(①÷②)</b>	<b>31%</b>	<b>31%</b>	<b>33%</b>	<b>34%</b>	<b>34%</b>
<b>①再資源化量</b>	17.2万ト	15.9万ト	17.8万ト	17.7万ト	17.8万ト
市資源化量 (定期収集、拠点回収、バイオガス化等)	2.5万ト	3.0万ト	3.0万ト	3.2万ト	3.2万ト
民間リサイクル量(家庭系) (コミュニティ回収、店頭回収、古紙回収等)	3.5万ト	3.1万ト	2.9万ト	2.6万ト	2.3万ト
民間リサイクル量(事業系) (木質ごみ、食品廃棄物、古紙、缶びんペット等)	11.1万ト	9.8万ト	11.9万ト	11.9万ト	12.2万ト
<b>②総排出量</b>	55.7万ト	51.6万ト	53.2万ト	52.8万ト	52.2万ト

# 廃棄物処理に伴う温室効果ガス排出量

(万トン-CO<sub>2</sub>) 廃棄物処理に伴う温室効果ガス排出量の推移



- 排出量の8割がプラの焼却に由来しており、プラの2Rと分別・リサイクルの影響を大きく受ける指標
- R4年度は、ごみ量ピーク時のH12年度からは48%減少、基準年度であるH25年度と比べて9.3%減少しているものの、R2年度以降、横ばい。
- R5年度はエネルギー消費由来分が算定中だが、ごみ焼却由来はR4年度から減少している。
- R12年度目標11.3万トン-CO<sub>2</sub>までは残り3.3万トン-CO<sub>2</sub>であり、取組の加速が必要

	H12年度	H25年度 【基準】	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
廃棄物処理に伴う温室効果ガス排出量(①+②)	28.2万トン	16.1万トン	15.7万トン	14.7万トン	14.8万トン	14.6万トン	算定中
①ごみ焼却由来	27.7万トン	15.4万トン	14.9万トン	13.9万トン	14.1万トン	14.1万トン	13.5万トン
プラ由来のCO <sub>2</sub>	23.5万トン	12.3万トン	12.1万トン	11.3万トン	11.6万トン	11.4万トン	10.8万トン
合成繊維由来のCO <sub>2</sub>	2.9万トン	2.3万トン	2.2万トン	2.1万トン	1.9万トン	2.2万トン	2.1万トン
全体由来のCH <sub>4</sub> 、N <sub>2</sub> O	1.3万トン	0.8万トン	0.7万トン	0.6万トン	0.6万トン	0.6万トン	0.6万トン
② 施設・車両等のエネルギー消費由来	0.5万トン	0.7万トン	0.9万トン	0.8万トン	0.7万トン	0.5万トン	算定中